

今回は、高等部の「自立活動」の授業の様子を紹介します。

活動名	言葉のキャッチボールをしよう
子どもたちの様子	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちに合わせることが苦手で一方的に話してしまい、会話が続かない。 ・感情的になりやすく、怒りの気持ちへの対処法が分からない。 ・ひどく怒ったり、泣いたりしてしまうことがある。
ねらい	友達との会話を楽しむことができる。
授業の展開	<p>① 導入：友達と円滑な関係を育むには、言葉のやり取りが大切であることを伝える。友達と会話を楽しむために、心掛けることを確認する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 相手の顔を見て話す。 2 相手に聞こえる声で、最後まではっきり話す。 3 丁寧な言葉で話す。 <p>② 展開：テーマに沿って、ロールプレイをする。 例「お休みの日 何してた？」について</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ロールプレイの前に言葉のキャッチボールのルールを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 相手の話を聞き終わってから、一呼吸おいて自分の話をする。 2 相手の話を否定しない。 3 本当にあったことを言う。 (2) ペアを組み、ロールプレイをする。 (3) ロールプレイの様子を撮影した動画を全員で見て、ポイントに沿って発表しあう。 ポイント <ol style="list-style-type: none"> 1 やり取りが何回続いたか。 2 よかったところ 3 改善するところ (4) 意見をもらったところを意識して、もう一度ロールプレイをする。 <p>③ まとめ：言葉のキャッチボールのポイントを再確認し、次回気を付けるように伝える。</p>
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取りが続いた回数を数えることで、相手の話が聞けたことや自分も考えて返事ができたことが分かり、自信につなげることができる。会話のキャッチボールが何回続いたか、ビデオを見ながら数えると、最高で15回続いていた。生徒は会話が長く続いてうれしそうだった。 ・撮影したビデオを見て、自分を客観的に振り返ることで、楽しい会話のポイントを自分で確認できる。声が小さすぎて聞こえなかったことや、相手に話した後にすぐに話し始めていることなど、ビデオで振り返りながら、できたことやできていなかったことを生徒自身で確認することができた。
授業を振り返って	<p>今回のロールプレイを通じて、会話が長く続くと、友達の思っていることをたくさん聞けたり、自分の考えていることをたくさん聞いてもらえたりして、大変うれしそうなお表情だった。</p> <p>自分の話す様子を見た生徒は、自分の話し方の癖に気が付き、普段の学校生活の中で先生や友達と話すときに直した方がよい点を知ることができた。身近な人とのコミュニケーションを深めるためにも、日頃から実践していけるように促した。</p>

